# 宮柊二記念館だより

2020.3.25
第 52 号
発行　宮柊二記念館
TEL･FAX
025－794－3800

令和元年12月　広神公民館ふるさと講座（広神中学校）

## 新しい感覚で…

短歌大会への応募増と宮柊二記念館を皆さんから知っていただくため、地域に出向いての「出前講座」を実施しています。

昨年秋、魚沼市広神公民館長さんから「卒業を前にした三年生を対象にして『広神中学校校歌』（作詞 宮柊二）と、校歌に込められた思いについて話してもらえないか」との依頼を受けました。

地域（ふるさと）を大切にしてほしいと願うY館長の想いにこたえられるかどうか…不安を抱えながらの取り組みでした。

子どもたちの真剣なまなざしを感じ、冷や汗を流しながらも何とか終えることができました。

随筆集『雪の里』を参考に、歌詞に読み込まれた「吹雪、権現堂、破間川、かたくり、つくし」などを例に、地域を愛してやまなかった柊二の想いが込められた歌であることの一端を伝えることができればと考えたのですが…

魚沼市は平成十六年の合併から十六年、この間、当館の主管は市長部局から教育委員会部局へと移り、加えて新年度からは地域に分散していた業務が（一部を除き）新庁舎に一元化されることになります。

積み上げてきた「あゆみ」を財産として、新しい感覚での施設運営が求められています。より多くの人に、より広く宮柊二記念館を知っていただく方策は…?

皆様のお知恵とご意見をお願いいたします。

今冬も異常なまでの小雪、雪消えも一月以上も早いと伝えられ、地域には哀と喜とが交じり複雑な状態です。新型コロナウイルスにも悩まされそうです。

今年の干支は「子」、ネズミ算のように商売繁盛と子孫繁栄の一年となりますように…

報告

## 第二十五回宮柊二記念館全国短歌大会

# 一一、三七〇首の応募

【一般の部】

最優秀賞
雪国の駅の立ち食い一本のうどん吸う子の頬の赤さよ　神奈川県　藤沢市　近藤　千壽

選者賞（坂井修一 選）
飛べずともサギサウつばさひろぐるをＡＩたちはきつと知らない　岐阜県　岐阜市　臼井　均

選者賞（小島ゆかり 選）
ハーモニカの一音欠けしファの音の黴の匂ひも遺品となりぬ　新潟県　新潟市　山崎とし子

【ジュニア部門（小学生の部）】

選者賞（坂井修一 選）
薬師寺のせみと木魚がたたかってどちらが勝つかまだわからない　新潟県　魚沼市立堀之内小　眞島　花恵

選者賞（小島ゆかり 選）
入り口も出口もないしょありたちの行列のあるばあちゃんのにわ　山口県　光市立光井小　横道　玄

【ジュニア部門（中学生）】

最優秀賞
時間ないそんな言い訳ふきとばすショパンの「革命」私を変えた　神奈川県　中央大学附属横浜中　宮崎真莉奈

選者賞（坂井修一 選）
梅雨の日の雨に濡れ行く人達を静かに見つめるカエルの心　新潟県　長岡市立栖吉中　大海　光春

選者賞（小島ゆかり 選）
海渡る風が生みだすうずしおに吸い込まれそう夏の奥まで　神奈川県　中央大学附属横浜中　河村　美緒

【ジュニア部門（高校生）】

選者賞（坂井修一 選）
数学の先生僕を指名する烏賊なら墨吐き逃げ出している　新潟県　東京学館新潟高　鈴木　寛人

選者賞（小島ゆかり 選）
祖父の手を最期に握ったぬくもりが消えていくのは深海のよう　岩手県　岩手県立北上翔南高　髙橋　芙優

第二十五回全国短歌大会は、令和元年十一月十六日㈯、選者に坂井修一先生（かりん）、小島ゆかり先生（コスモス短歌会）をお迎えし、堀之内公民館で表彰式を開催しました。会場には三百人を越える皆様から参加をいただき、両選者から軽快なトークで選評をいただくなど盛大に開催することができました。応募総数は一一、三七〇首で、一般の部、ジュニアの部共に多くの応募が寄せられました。ジュニアの部は、毎年、各学校のお力添えにより多数の応募をいただきました。感謝申し上げます。

毎年、年始の歌会始めに関するニュース報道を楽しみにしています。歌会始めの入選者の中に短歌大会の応募校の生徒を見かけると非常に嬉しく思います。この短歌大会も一つの発信源として、短歌に親しむ若者が全国で増えていくことを願っています。

### 第25回　短歌大会　応募状況

| 区　分 | 応募作品数 | 応募者数 |
|---|---|---|
| 一般の部 | 954首 | 416人 |
| ジュニアの部 | 10,416首 | 5,386人 |
| （小学生） | 2,090首 | 1,084人 |
| （中学生） | 4,108首 | 2,107人 |
| （高校生） | 4,218首 | 2,195人 |
| 総　数 | 11,370首 | 5,802人 |

このような状況のなか、宮柊二記念館全国短歌大会も、さらに素晴らしい大会にしていきたいと考えており、令和二年度も第二十六回となる短歌大会を予定しています。五月一日から応募受付を開始し、一般の部は七月三十一日、ジュニアの部は九月六日が締め切りの予定です。大勢の皆様の参加をお待ちしています。

【選者のことば】

## 言葉の力を信じて

### 坂井修一

皆様、こんにちは。第二十五回宮柊二記念館全国短歌大会の選者を拝命しました坂井修一です。

寄せられたたくさんの歌を読ませていただきながら、人生のさまざまな場面を思い浮かべました。ジュニアの皆さんの作品からは、実らなかった初恋、焦ってかたづけた夏休みの宿題、苦しかった受験勉強など。一般の部の方々の作品からは、老いゆく両親や巣立っていったひとり子、社会で生じるさまざまな軋轢、人情の機微や信頼していた友に裏切られた悔しさ。

短歌はたいへん短い詩なのですが、作品が広げる言葉の時空はとても広くて深いものがあります。私は、作歌を始めてから四十年ちょっとになりますが、たくさんの優れた歌人からこのことを教わりました。もちろん、宮柊二さんもその中のたいせつなひとりです。

耳を切りしヴァン・ゴッホを思ひ孤独を思ひ戦争と個人をおもひて眠らず　『山西省』　宮　柊二

世界の中で一個の人間が生きていくこと。それを突き詰めるとこういう歌になるのでしょう。この歌は、第二次世界大戦に出征したときのものですが、二十一世紀の今、強い臨場感をもって蘇ってくる気がします。

私は、生前の宮柊二さんに一度だけお会いしたことがあります。おごそかな沈黙をたたえた歌人らしい歌人の印象がありますが、お弟子さんたちの見方は少し違うようですね。

宮さんの面影をしのびつつ、新しい時代の短歌を皆さんとともに作る喜びを味わい尽くしたいと願っています。

―「入選作品集」より再掲

**坂井　修一**（さかい　しゅういち）

1958年、愛媛県松山市生まれ。

1978年、「かりん」入会と同時に作歌開始。現在、「かりん」編集人。現代歌人協会理事。ＮＨＫ学園「短歌友の会」選者。

歌集『ラビュリントスの日々』（現代歌人協会賞）、『ジャックの種子』（寺山修司短歌賞）、『アメリカ』（若山牧水賞）、『望楼の春』（迢空賞）、『亀のピカソ』（小野市詩歌文学賞）、『古酒騒乱』など11冊。歌書『斎藤茂吉から塚本邦雄へ』（日本歌人クラブ評論賞）、『ここからはじめる短歌入門』など。

東大卒。工学博士。現在、東京大学情報理工学系研究科教授。著書『知っておきたい情報社会の安全知識』、『ＩＴが守る、ＩＴを守る－天災・人災と情報技術－』など。

【選者のことば】

## 蟻と永遠

### 小島ゆかり

宮柊二に、こんな二首があります。

いろ黒き蟻あつまりて落蟬を晩夏の庭に努力して運ぶ

流れつつ藻も芥も永遠に向ふがごとく水の面にあり　『晩夏』

どちらも、一九五一（昭和二十六）年刊行の第四歌集『晩夏』に入っている歌です。厳しい時代背景のなかから生まれてきた作品ですが、それはひとまず置いて、歌の表現だけに注目してみましょう。

一首目は、庭の蟻。よく見ています。そして「努力して運ぶ」という、詩情に傾かない実直な言葉を選んでいます。これを声に出して読んでみると、ヨイショヨイショと落蟬を運ぶ、蟻たちの動きのようなリズムであることがわかります。

二首目は、川を流れる藻や芥、つまり川面のゴミを見ているのですが、途中でいきなり「永遠に向ふがごとく」と大きく飛躍します。これにより読者は、感覚的な世界、思想的な世界、さらに普遍的な世界へと導かれてゆくのです。

同じ作者の同じ時期の作品にして、表現の方法がずいぶんちがうことがわかるでしょう。しかし「蟻」も「永遠」も、作者にとって大切なテーマであったと思います。

短歌は形式のある小さな小さな詩ですが、「蟻」も「永遠」も表現することができる詩型なのです。

久しぶりに本短歌大会の選者をつとめ、応募数がたいへん増えたことに驚き、みなさんの作品の充実ぶりにも驚きました。ご投稿くださった方々や、会の運営に尽力くださっている方々のおかげで、すばらしい成果が得られたことに、心から感謝いたします。そして、選をとおして示唆や刺激をくださった坂井修一選者にも、お礼申し上げます。

―「入選作品集」より再掲

**小島ゆかり**（こじま　ゆかり）

1956年、愛知県名古屋市生まれ。

早稲田大学在学中に作歌を始める。1978年「コスモス」入会（現在、選者・編集委員）。同人誌「桟橋」にて奥村晃作さん、高野公彦さんらに学び、さらに同人誌「COCOON（コクーン）」にて後輩の若い歌人たちから刺激を受ける。

産経歌壇、中日歌壇選者、短歌甲子園（全国高校生短歌大会）特別審査員、高校生万葉短歌バトル判者など。

歌集に『希望』（若山牧水賞）、『憂春』（迢空賞）、『泥と青葉』（斎藤茂吉短歌文学賞）、『馬上』（芸術選奨文部科学大臣賞）、『六六魚』（詩歌文学館賞）など。

歌書に『和歌で楽しむ源氏物語』など。

2017年秋、紫綬褒章。

「宮柊二記念館、平成のあゆみ」展を振り返って

# 前後半に展示を分けて短歌大会の軌跡を遡りました

令和元年度は、「宮柊二記念館、平成のあゆみ」展として、第一回大会から順番に各大会の入選作品集や選者から寄贈いただいた色紙等の短歌大会関連資料を展示しました。

また、開館当時の写真なども展示し、「平成」と共に歩みを進め、大勢の皆様から親しまれている短歌大会、そして宮柊二記念館の軌跡をご覧いただきました。十一月の短歌大会前に展示替えを行い、現在は第十三回全国短歌大会から第二十四回までの展示をしています。

三月に臨時休館したため、展示期間を延長する予定です。ぜひお越しください。

## 近年の短歌大会

企画展示は、十一月に展示替えを行い、現在は、第十三回全国短歌大会から昨年度の第二十四回まで展示しています。

近年の短歌大会は、第十八回大会から応募総数が一万首を超えました。特にジュニアの部の応募をたくさんいただいており、最多の応募をいただいた第二十一回短歌大会では、一般の部で九九二首、ジュニアの部で一二、六七五首の応募がありました。

事務作業の裏話をしますと、年々増えるジュニアの部の作品に、パソコン入力作業をする我々職員一同は嬉しい悲鳴を上げています。また、入力が完了すると大きく安堵するものです。

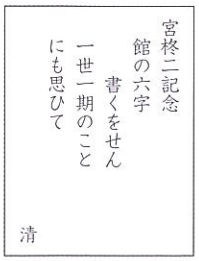
さて、今回の展示にはありませんが、第二十五回短歌大会では、初めて海外からの応募作品が入賞し、全世界へと短歌大会が繋がっていることを感じました。ようやく「全国」短歌大会の名に恥じない大会へと成長してきたと考えています。

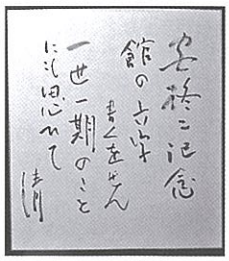
来年度は宮柊二が詠んだ故郷の歌を題材に展示をする予定です。

# 展示資料紹介

「宮柊二記念館、平成のあゆみ」展で展示した資料を紹介します。こちらは平成４年の記念館開館当日の資料です。

### 野村 清氏 直筆色紙



### 記念館開館当日の写真

開館当日の記念館玄関前の写真です。テープカットに参加しているのは、右から大渕靖二氏（故・堀之内町長）、野村清氏（故）、宮英子氏（故）、真島熊一氏（町助役）、鈴木喜一郎氏（故、町議会議長）。

# 令和元年度 事業報告

今年度は「宮柊二記念館、平成のあゆみ」展、第25回となる短歌大会などを中心に、各種の事業を実施しました。

## 令和元年度実施事業について

◎５月25日
「宮柊二記念館、平成のあゆみ」展
オープニングセレモニー（テープカット）
記念講演 「短歌大会と私」
講　　師　岡崎康行 氏

◎６月29日～８月18日
第24回全国短歌大会ジュニア部門特別賞展

◎７月21日
講演会 「『獨石馬』を読む」
講　師　田宮朋子 氏

◎８月３日～８月18日
山本勝三郎遺作展

◎９月７日～９月23日
坂西徹朗版画展

◎11月16日
第25回宮柊二記念館全国短歌大会
選者講評　坂井修一 氏　小島ゆかり 氏

◎11月16日～12月10日
短歌大会選者・特別賞受賞者直筆色紙展

◎１月19日
短歌セミナー
講演会 「日中戦争と宮柊二の戦闘参加」
講　師　奥村晃作 氏

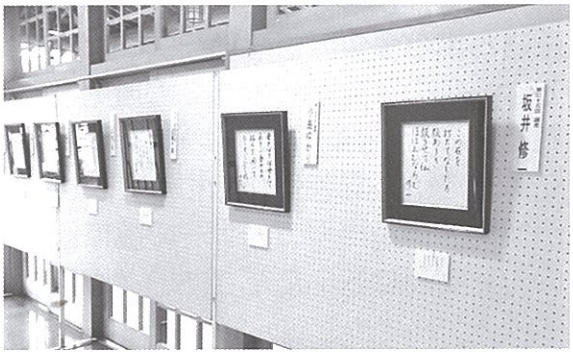
市内学校で短歌出前教室等を行いました。

| | |
|---|---|
| ◎７月18日 | 堀之内中学校 |
| ◎７月22日・24日 | 小出高等学校 |
| ◎８月30日・９月２日 | 堀之内小学校 |
| ◎12月10日 | 広神中学校（宮柊二と校歌） |

### 短歌セミナー「日中戦争と宮柊二の戦闘参加」

１月19日、歌人の奥村晃作先生を迎え「日中戦争と宮柊二の戦闘参加」と題して短歌セミナーを開催しました。柊二が辿った戦地について解説いただき、奥村先生自身が訪れた山西省の思い出なども話されました。

### 第25回短歌大会特別賞受賞者展



第25回短歌大会の選者・坂井修一先生、小島ゆかり先生の作品色紙をはじめ、今大会で特別賞を受賞された皆さまの直筆作品を11月16日から12月10日まで１階ホールで展示させていただきました。

## 令和二年度 宮柊二記念館 事業計画

企画展示では、柊二が故郷を詠んだ歌について展示をする予定です。また、短歌大会をはじめ、多くの方々に当館を知ってもらえるよう活動を展開します。

### ◎令和二年度　企画展示

・テーマ　柊二、ふるさとの歌（仮題）
・期　間　未定

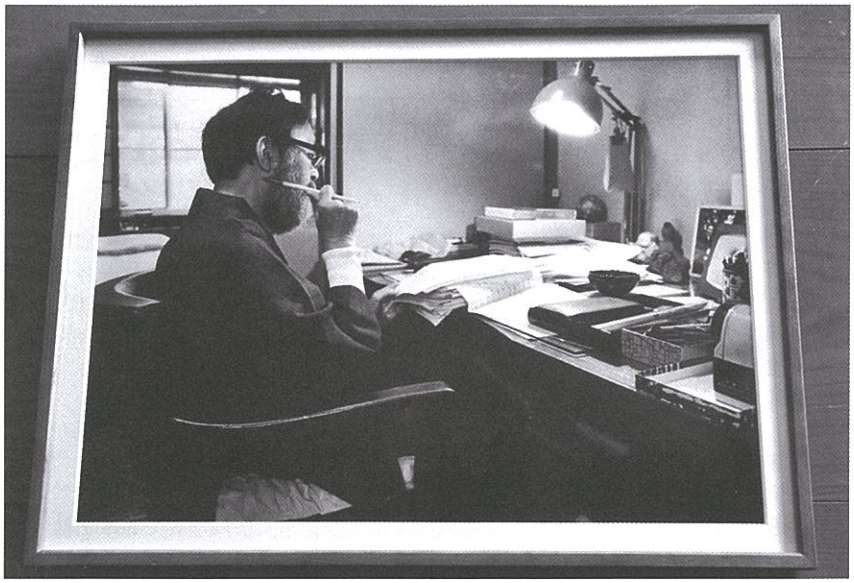
### ◎第二十六回全国短歌大会

・募集開始　五月一日㈮
・締め切り
一　般　の　部　七月三十一日㈮
ジュニアの部　九月六日㈰
・内　容
作品は二首　一、〇〇〇円
海外からの応募、ジュニア部門（高校生以下）は無料

### 【短歌大会】（表彰式）

・日　時　十一月十四日㈯
・会　場　堀之内公民館
（魚沼市堀之内一三〇）

この他にも、「記念館短歌教室」や「ジュニア短歌教室」など各種事業を行っていく予定です。

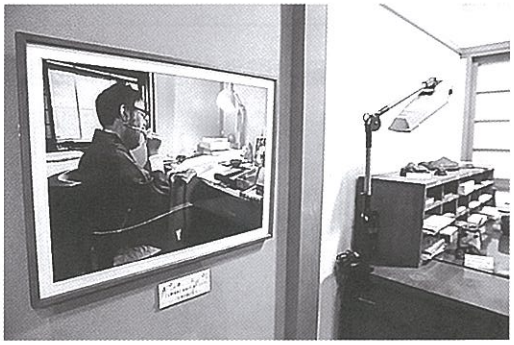


# 宮柊二 写真

（令和元年度新資料）

書斎にて『文藝春秋』昭和53年11月号「日本の顔」より

## 宮柊二記念館収蔵資料紹介　No.52



今回紹介する資料は、宮柊二ご長女の片柳草生さんより今年度寄贈いただいた宮柊二の写真です。この写真は、宮柊二の自宅書斎で撮影されたもので、書斎の様子や柊二の筆を取る動き、執筆している雰囲気が伝わってきます。第二展示室内の書斎再現コーナーの脇に設置しましたので、ぜひご覧いただきたいと思います。

## 新型コロナウイルスの脅威

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、宮柊二記念館は3月5日から臨時休館しております。利用者の皆様には、大変ご不便をおかけいたしましたが、ご理解くださるようお願いいたします。

新年度のオープニングセレモニーや短歌教室など開催日程に影響を受ける恐れがありますので、個別の案内やホームページ等でご確認ください。

り患被害が早急に収束に向かうよう職員一同心より願っております。

また、3月末日までとしていた今回の企画展は5月末まで延長させていただきます。

## 小島記念館長退任のお知らせ

当館の小島克朗記念館長が3月末で退任されます。小島記念館長は平成22年4月から10年にわたりお務めいただきました。

## 「友の会」からのお知らせ

宮柊二記念館では、「友の会」会員を募集しています。年会費は1，000円です。

くわしいことは、宮柊二記念館にお問い合わせください。

宮柊二記念館だより　第52号
発　行　2020．3．25
問合せ　宮柊二記念館（〒949-7413　新潟県魚沼市堀之内117-6）　TEL･FAX　025－794－3800
メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp　ホームページ http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji